

防災問題研究会 第2回 防災情報交換会「コミュニケーション手段」

講演会や見学会では詳しく聞くことの出来ない、防災責任者や担当者が欲しい情報を交換するために、昨年度から防災委員と研究会員に限定した「防災情報交換会」を開始している。3月6日に、第2回として、東日本大震災発生時の従業員への指示と情報提供（構内放送など）、各職場の保安防災責任者や保安員との通信手段、本社や他の事業所との通信手段などについて、電力中央研究所横須賀運営センターと日産自動車本社より実態と課題、今後の対応について発表戴いた。

電力中央研究所横須賀運営センター

当センターは、東日本大震災発生時に停電が発生した。構内停電時の事例として、①内線電話のHUBに非常電源がなく不通(本体には有り)、②PHS構内携帯電話の基地局が停電により不通、③地区間専用回線が停電により不通、④構内放送の途中の増幅器に非常電源がなく一部建屋に放送が流れないなど（パソコンも、サーバーには非常用バッテリーがあるが、ルーターなどの周辺機器には非常用電源がないため、停電時には使えなくな



ることが予想される。大災害時には停電が発生することを見越して対策を打っておく必要がある）。

その他、市の防災無線が聞こえないエリアがあったので、構内への設置を含めて市と調整中。

日産自動車本社

年に4回程度の地震発生時対応シミュレーション演習を実施しており、演習直後に東日本大震災が発生した。当日は衛星電話が通じなかったが、原因を調査したところ多くが操作ミスであったことが判明した。各事業所から本社への報告は衛星電話、本社から各事業所への連絡はMCA無線というように使い分けている。 (文責事務局)